

自己評価報告書(最終報告)

コース等名

言語系コース(国語)

記載責任者

原 卓志

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ. 学長の定める重点目標

Ⅰ-1. 教員養成の質保証

大学の機能別分化・機能強化が求められる中、本学は教員養成大学として高度専門職業人としての教員を養成することを目標としている。教員養成の質保証のため、専攻・コースではどのような取り組みを行うか、具体的な方策を示してほしい。

1. 目標・計画

次のような取り組みを行い学生の教育実践力向上をはかる。

- 年度初めにコース所属教員全員が出席して学年別オリエンテーションを行い、修学および就職に関する心構えや、学習方法や生活について指導する。
- 各教員の授業で、4年間のカリキュラムを見通して、教育現場の実践に生きる内容を精選し、授業内容に盛り込む。また、演習発表・模擬授業と質疑・討議など、学生が主体となる学習形態を効果的に配置した授業を展開する。
- 教育実習に積極的に参加し、指導・助言を行うなど、附属学校国語科教員との連携のもとで学生の教育実践力養成に努める。

2. 点検・評価

- 年度初め(4月10日)にコース所属教員全員が出席し、学年別オリエンテーションを実施し、修学および就職に関する心構えや学習方法、生活に関して指導した。また、それ以外にも適宜生活指導(飲酒などに対する注意喚起)を行った。
- コース所属教員が、それぞれの担当する授業において、4年間のカリキュラムを見通して、教育現場の実践に生きる内容を精選し、授業内容に盛り込んだ。また、演習発表・模擬授業と質疑・討議など、学生が主体となる学習形態を配置した授業を展開した。
- 《例:国語学分野では、4年間の国語学カリキュラムを見通して、「教室につながる国語学」を合い言葉に授業担当者が連携して授業を展開した。》
- 教育実習に積極的に参加し、指導・助言を行うなど、附属学校国語科教員との連携のもとで学生の教育実践力養成に努めた。また、実習生の求めに応じて、教材分析・授業構想についての助言を行った。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- 国語コースの学生が、有意義で実りある学生生活を営むことができるように、コース所属教員全員が連携して修学・就職支援を行う。
- 学部学生・大学院生の就職支援のために次の活動を行う。
 - ・学年別オリエンテーションを実施し、教員採用試験に対する受験勉強の計画法・学習方法・受験都道府県(市)の選び方、また、就職活動全般に対する心構えなどを指導する。
 - ・就職ガイダンスの実施に対して、積極的に支援する。
 - ・コース所属教員が、採用試験対策(小論文・模擬面接・模擬授業の指導など)を積極的に行う。
- 教員と学生間で積極的にコミュニケーションを図り、良好な人間関係を構築する。
- ゼミ室・院生研究室などの学習環境の向上を図る。

2. 点検・評価

- 国語コースの学生が、有意義で実りある学生生活を営むことができるように、コース所属教員全員が連携して修学・就職支援を行った。
- 学部学生・大学院生の就職支援のために次の活動を行った。
 - ・学年別オリエンテーションを実施し、教員採用試験に対する受験勉強の計画法・学習方法・受験都道府県(市)の選び方、また、就職活動全般に対する心構えなどを指導した。
 - ・就職支援室主催の就職ガイダンス等の実施に対して、学生の参加をうながすとともに、模擬面接・模擬授業などの面接官として積極的に参加し支援した。
 - ・上記行事の他にも、学生からの要望に応じて、採用試験対策(小論文・模擬面接・模擬授業の指導など)を積極的に行なった。
- 授業やゼミの時間以外でも、日常的なあいさつやことば掛け等をとおして、教員と学生間で積極的にコミュニケーションを図り、良好な人間関係を構築した。
- 学生・院生の要望に応じて備品等を購入するなど、ゼミ室・院生研究室・言語実験室の学習環境の向上を図った。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

国語科教育学, 国語学, 国文学, 日本語教育学の各分野における最新の研究を推進し, 学界に寄与するために, 次のような活動を行う。

- 第27回鳴門教育大学国語教育学会を開催し, 機関誌『語文と教育』第26号を刊行する。
- コース所属の教員それぞれが, 科学研究費補助金を申請する。すでに交付を受けた教員は, 当該課題の研究を推進する。
- 「鳴門教育大学リポジトリ」等を活用し, 研究成果の積極的な公開を進める。

2. 点検・評価

○第27回鳴門教育大学国語教育学会を, 平成24年8月24日に開催した(於本学講義棟, 研究発表7名)。また, 10編の論考を収めた『語文と教育』26号を刊行した(8月30日)。

○平成25年度科学研究費補助金について, 研究代表者として5件, 研究分担者として4件の計9件の課題を新規に申請した(未申請者はゼロ)。また, 平成24年度は, 研究代表者として5件, 研究分担者として5件の計10件の研究を推進した。

○「鳴門教育大学リポジトリ」において, 『臨江山地藏寺所蔵文献目録(補訂版)』を公開した。また, 各教員の論文について電子化の状況を確認し, コースウェブページの教員紹介から論文本文へのリンクを設けた。さらに, 『語文と教育』の電子化について検討を進めた。

○文部科学省特別経費(プロジェクト分)「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」の推進に貢献した。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

○コース所属教員のそれぞれが, 各種委員会やワーキンググループの委員として, 当該委員会の会議に出席し, その職務を積極的に遂行する。

○教員免許状更新講習(選択領域)の複数開講, 公開講座の複数開催, 県・大学連携による教員研修への協力など, コースとして円滑な大学運営に協力を惜しまない。

○一般社団法人教育支援人材認証協会などの大学としての取り組みの委員として, 委員会の会議に出張し, その職務を積極的に遂行する。また, 「こどもサポーター」等の認証 講座を積極的に担当する。

2. 点検・評価

○コース所属の教員それぞれが, 各種委員会やワーキンググループの委員・委員長として当該の会議に出席し, その職務を積極的に遂行した。

○文部科学省の「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」の計画・実施に積極的に協力した。また, 教育支援人材認証協会の事業について, 事業が円滑に進行し成果をあげられるように協力し, 認証講座「こどもサポーター(読み聞かせ)」を担当した。

○教員免許状更新講習(選択領域)において, 「国語科教育におけるリテラシーのとらえ方」, 「絵本とその読み聞かせの教育的効果」, 「子どもの発達段階に応じる音読・朗読と絵本の読み聞かせ」を開講した。また, 公開講座「知ってるようで知らないことばの世界」を開講した。さらに, 徳島県・大学等連携による教員研修を複数のコース所属教員が担当し, コースとして円滑な大学運営に協力した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- 大学教員と附属学校園教員との連携体制を維持・発展させるために, 学部・附属国語科連絡協議会を開催し, 教育・研究に関する意見交換を積極的に行う。
- 各地域の教育機関や各種校園との交流を図り, 研修や公開講座などの事業に参画する。
- 「アフガニスタン識字教育強化プロジェクト」などの国際協力事業に貢献する。
- 協定校など, 海外の大学からの留学生を受け入れ, 交流を図る。

2. 点検・評価

- 平成24年6月と平成25年1月に学部・附属国語科連絡協議会を開催し, 附属学校との研究協力活動を図った。また, 国語科教師教育研究に関する共同研究を計画し, 科学研究費補助金に応募した。
- 附属中学校の授業(「選択国語2年」)を附属中学校の教員と共同で担当した。
- 地域の教育機関や各種校園との交流を図り, コース所属教員が県内において, 50回以上の各種研修や公開講座などの事業を担当した。
- コース所属教員が, 「アフガニスタン教師教育強化プロジェクト」「アフガニスタン識字教育強化プロジェクト」に参加し, 業務を遂行した。また, 本邦研修「アフガニスタン教授法改善コース」, 国別研修「初等理数科授業改善コース」の実施に協力した。
- インドネシア授業研究大会に参加したコース所属学生による学内写真展の実施をコース所属教員が支援した。これにより, 国際理解・国際交流の意識を全学的に広めることが出来た。
- アメリカ・ピュージェット・サウンド大学から学生2名を受け入れ, 県内の小学校で英語授業を実施し, 生徒・教員との交流を深めた。
- 大学間交流協定締結校である青島大学, 台北市立教育大学, シーナカリンウィロート大学, コンケン大学から9名(大学院生1名, 学部生8名)の短期留学生(特別聴講学生)を受け入れ, 学生間の交流を図った。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- 文部科学省特別経費(プロジェクト分)「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」において, コースから複数の教員が参画し, その推進に大いに貢献した。
- 24年度も大学間交流協定締結校から複数の留学生を受け入れるとともに, 学生・院生の海外研修を実施するなど, 国際交流に貢献した。